

最新のレジリエンス研究の成果を刊行

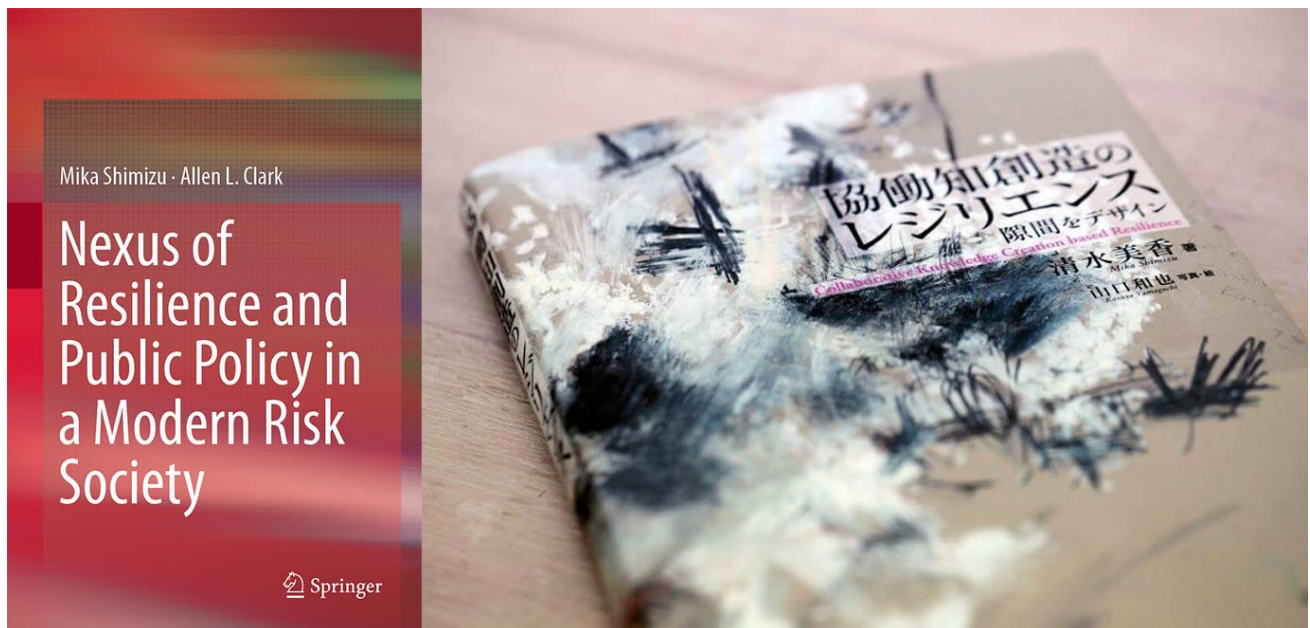
”Nexus of Resilience and Public Policy in a Modern Risk Society”

—持続可能な社会の道しるべを描く—

概要

京都大学学際融合教育研究推進センター 清水美香 特定准教授が、複雑で不確実な時代における持続可能な社会の道しるべを描いたレジリエンス研究の最新成果を研究書”Nexus of Resilience and Public Policy in a Modern Risk Society”にまとめ、2019年2月5日に Springer から出版しました。

清水特定准教授は、米国で長年自然・社会環境変化におけるレジリエンスの研究を行い、その後継続的に京都大学でも研究を続けてきました。研究をつらぬくキーワードは、現代の社会問題解決に必須の「システム思考」「デザイン思考」「システムズアプローチ」などで、今そしてこれからの持続可能な社会創りに役立つ成果を生み出しています。本書は、自然・社会・人間システムに共通するレジリエンスの構造と、レジリエンスが機能する条件を明らかにし、レジリエンスアプローチとして集約しています。複雑化する自然災害や、SDGs（国連の「持続可能な開発目標」）が示す持続可能な社会の複合課題群を解決するためのツールとして活用されることが期待されます。



本書”Nexus of Resilience and Public Policy in a Modern Risk Society”（左）と、同じテーマを扱った和書『協働知創造のレジリエンス』の書影（右）

1. 背景

本書”Nexus of Resilience and Public Policy in a Modern Risk Society”は、著者清水美香が、共著者 Allen Clark と共に近年の大きな環境変化・災害を背景に 10 年以上にわたって行ってきたレジリエンス研究の集大成です。

遙か昔、科学者アルベルト・アインシュタインが「私たちが抱えている問題は、その問題を作り出した同じ思考レベルでは解決することはできない」と述べましたが、本書はその見方を具現化しています。従来のレジリエンス本のように生態、社会、人間の個別のレジリエンスではなく、自然システム、社会システム、人間システムに共通するレジリエンス、またはそれらを繋ぐ複合的・包括的・創造的なレジリエンス思考に焦点を当て、さらに複雑な社会課題の解決方向に向けるためのレジリエンスアプローチを打ち出すダイナミックな内容となっています。

2. 研究手法・成果

本書では自然・社会・人間システムに共通するレジリエンスの構造を明示し、その機能を「リンケージ」・「プロセス」・「時間」・「スケール」の4つの位相に分類してレジリエンスが機能する条件を明らかにし、レジリエンスアプローチとして集約されています。このアプローチは複眼的かつ多角的な思考に基づくため、複雑化する自然災害や、SDGs（国連の「持続可能な開発目標」）などが示す持続可能な社会のための複合課題群に対処するための、問題解決型のツールとして活用することができます。

3. 波及効果、今後の予定

今後は、様々なステークホルダーが持続可能な社会を自ら創造するための社会的課題解決志向ツールとしてレジリエンスを如何に社会実装するか、それを如何に実際の持続可能な社会の各課題に適用するかについて、ステークホルダーを巻き込んで研究し、SDGs 実施への具体的かつ明確な道筋に結び付けていきます。

例えば、2016年5月にロックフェラー財団の「100のレジリエント・シティ」に選定された京都市は「都市のレジリエンス」を「平常時の予防・強化力、危機発生時の危機対応力、危機からの創造的再生力を合わせた都市の能力」と定義づけ、レジリエンス戦略の策定作業を進めています。

なお、本研究については、2015年に出版された和書『協働知創造のレジリエンス～隙間をデザイン～』（清水美香著、京都大学学術出版会）でも詳述されています。

4. 研究プロジェクトについて

関連の研究/実践/教育活動は、「レジリエンスイニシアティブ」として集約し、<https://resilience-initiative.com/> に掲載しています。

<用語解説>

レジリエンス：広義には「大きな変化や逆境にあってもしなやかに回復する力、変化する力、発展する力」を指す。より専門的には、「人、森、都市といったシステムが変化に対応し、発展しつづける力（または器量）」を意味する。

<研究者のコメント>

人・社会・自然にはそれぞれ潜在的レジリエンスを備えています。相互のレジリエンスに支えられてこそ、それぞれのレジリエンスを育てられるという関係にあると捉えることが、持続可能な社会を考える上での第一歩になります。またレジリエンスアプローチの本質は「異なるものからその関係性や間にあるものを観察し、何が欠けているのかを観察すること」にあります。こうした思考方法や視点を通して、物事を注視すると、今まで気づかなかったアイデアや問題解決方法が浮かび上がってきます。ただし、これはテクニックや知識を得るだけでは不十分でしょう。その思考方法や視点を「体得する」ことが不可欠です。そのために日常の現場、教育、実践にこうした思考方法や視点を様々なプロセスや仕組みの中に浸らせていくことが欠かせません。このためより多くの方々に「体得」いただけるよう、研究・実践を一体として今後も進めていきます。持続可能な社会は、そこに生きる人それぞれがレジリエンスを育む素養を有しているかにかかっています。こうした取り組みにより多くの人に関わり、投げた石が波打って、次に広がっていくことを願います。

<出版物タイトルと著者>

タイトル：“Nexus of Resilience and Public Policy in a Modern Risk Society”

著者：Mika Shimizu, Allen L. Clark

出版社：Springer

出版日時：2019年2月5日

I S B N : 978-981-10-7361-8(Springer, 2019)

U R L : <https://link.springer.com/book/10.1007%2F978-981-10-7362-5>

<目次>

- Front Matter Pages i-xiii
- Introduction: Through Innovative Dimensions, Pages 1-11
- A Modern Risk Society and Resilience-Based Public Policy: Structural Views, Pages 13-31
- Resilience-Based Approaches and Public Policy: Operational Views, Pages 33-52
- Nexus of Resilience and Public Policy: Tohoku Disaster Cases, Pages 53-69
- Nexus of Resilience and Public Policy: Case of Hurricane Sandy in New York, Pages 71-91
- Linkages in Boundaries for Resilient Societies Through Local to Global Levels: Roles of Resilience-Based Public Policy, Pages 93-114
- Resilience-Based Public Policy/Approaches Assessment Framework, Pages 115-126
- Advanced Technologies in a Modern Risk Society: Role of Resilience-Based Approaches and Public Policy, Pages 127-136
- Conclusions, Public Policy Recommendations and Pathway Forward, Pages 137-145

<関連文献>

清水美香『協働知創造のレジリエンス～隙間をデザイン～』（2015年、京都大学学術出版会）

U R L : <http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?id=2015&lang=jp>

I S B N : 9784876982004

<参考図>

レジリエンス組み立てのための森の視点マトリックス



レジリエンス組み立てのための森の中の木の視点

A. 繋がり (リンケージ)	C. 時間
<ol style="list-style-type: none">1. 対面繋がり2. 多局面から分析的にかつ統合的に見るアプローチ3. 多様なセクターや組織間の相互コミュニケーション4. 中核的な調整機能5. 財務面、運用面、意思決定面の連携	<ol style="list-style-type: none">1. 日常の行動と非日常時の繋がり2. 迅速な対応3. 複数の時間軸（短・中・長期的）をもち、定期的に見直しながらい貫して進めるアプローチ4. 多様な世代間を考慮5. 「温故知新」
B. プロセス	D. スケール
<ol style="list-style-type: none">1. 評価と学習の一体プロセス2. 市民の自発的参加を促すプロセス3. 多様なステークホルダーが参画するためのプロセス4. 多様な人々・考えを反映させるためのプロセス5. オープンな情報と協働知創出システム	<ol style="list-style-type: none">1. 変化に応じた適応2. 代替的方法の探索3. 否定的な状況を建設的な状況に再創出する力・システム4. 資源を新しく組み合わせ、より良い方法に再構築する力・システム5. 過去の決まりきったルートに依存するのではなく、例外に気づき見直しをかけるアプローチ

図：レジリエンス組み立てのための森と木の視点マトリックス